

県民アンケート結果

(年代別クロス集計結果反映)

実施概要

- 県民アンケートの実施概要は、以下のとおり。

目的

- 県民アンケートを実施することにより、現在の県庁舎に対する**印象**を把握するとともに、県庁舎の再整備にあたり県民が**期待**していること、**基本理念の実現に重要と考える項目**について調査を行い、県庁舎に導入する機能等の検討の参考とするもの。
- また、**再整備のプロセスにおける県民参加**の意欲や方法について調査を行い、今後の情報発信やプロセスの参考とするもの。

方法

- 希望いわてモニター制度の活用

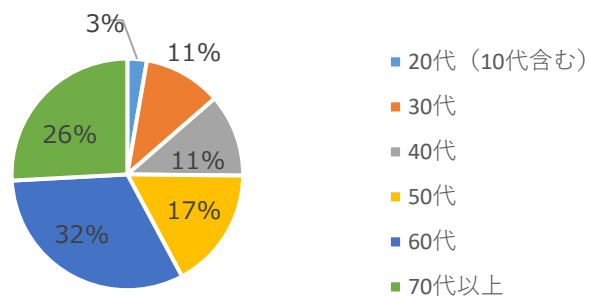
スケジュール

- 9/3(水)～9/17(水)：アンケート回答期間
- 9/24(水)～10/2(木)：集計・分析

対象者及び回答率

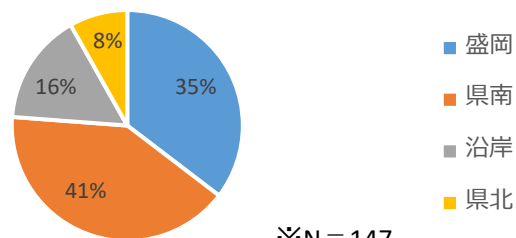
- 令和6、7年度希望郷いわてモニター 200名
- 回答率は73.5%（147名）
- 若年層のモニターが少なく、回答者の**年代に偏り**があるため、「20～50代（62人）」、「60代以上（85人）」で分類して集計を行う。

回答者の年代



※N = 147

広域圏ごと回答数



※N = 147

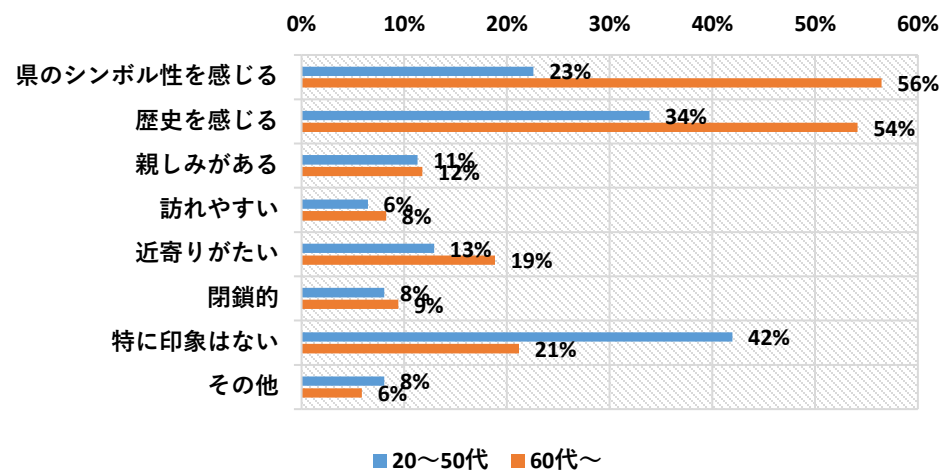
※朱書き部分は前回報告からの変更点

アンケート結果 1 : 現在の県庁舎に対する印象 1/2

(1) 現庁舎の印象

- 60代以上の方は、歴史性やシンボル性といった象徴性を評価する一方、20～50代は特に印象が無いという回答が最多という結果となった。

現在の県庁舎の印象



【主なその他意見】

- 各課が狭く、ゆとりがない。
- 用もなく訪れる場所ではない
- ロビーが狭い、薄暗い
- 殺風景な印象

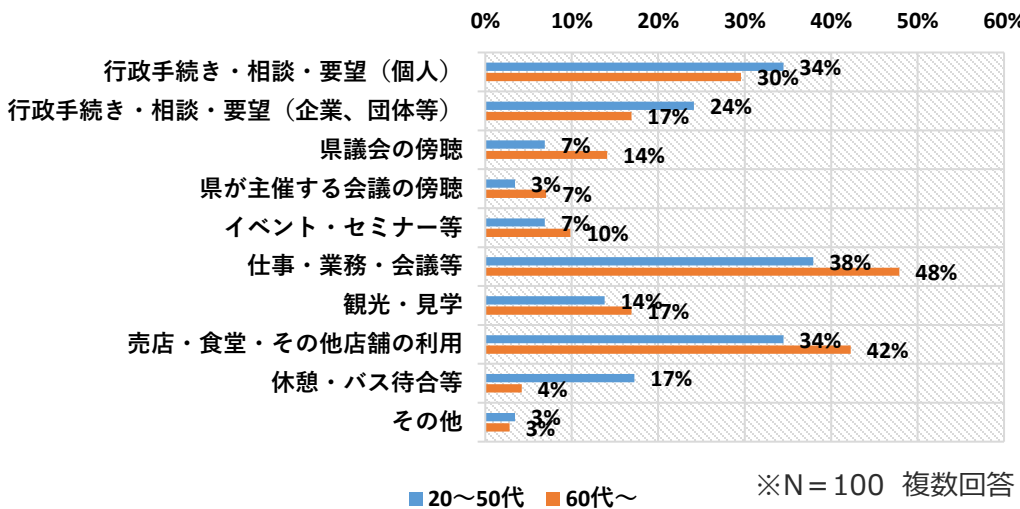
※N=147 複数回答

(複数回答の場合、回答者数を分母とし、項目を選択した人数を分子としているため、合計は100%にはならない。以降の質問に関しても同様)

(2) 来庁目的

- 来庁目的は、仕事や手続きで訪れる方が最多である一方、4割の方はテナントの利用を目的として訪れており、少数ではあるが見学、休憩やバス待合等、行政手続き以外の利用もされていることが分かった。
- 20～50代は行政手続き等を目的とする方が多く、その他の項目については、60代以上が相対的に多い。

来庁目的



【主なその他意見】

- 身体障がい者トイレの利用
- 他県の県庁は外を眺め、滞在できる場所がある

※N=100 複数回答

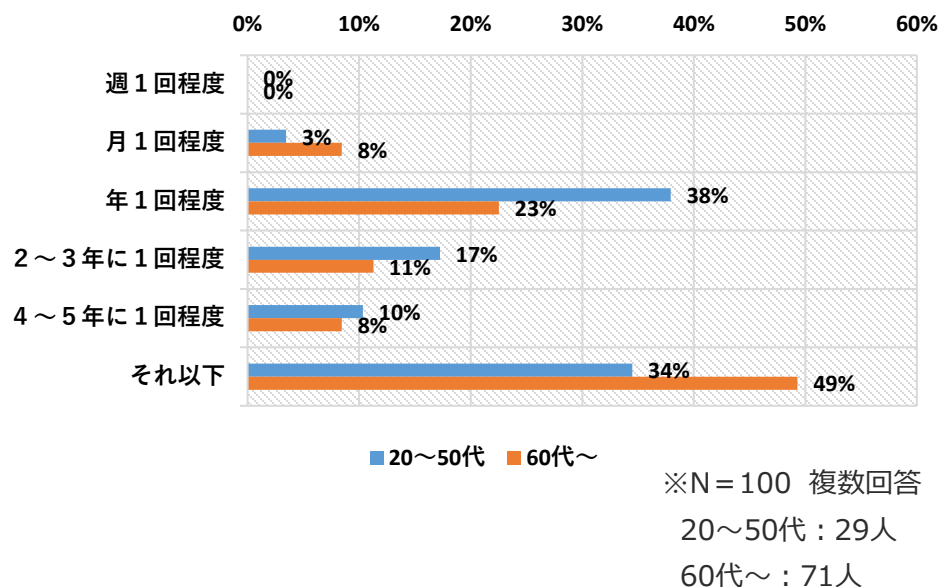
20～50代：29人
60代～：71人

アンケート結果 1 : 現在の県庁舎に対する印象 2/2

(3) 来庁頻度

- 来庁頻度は5年以下が最も多く、目的が無い限り、来庁する機会は無いことが推定される。
- 来庁機会は20～50代の方が高い傾向にある。

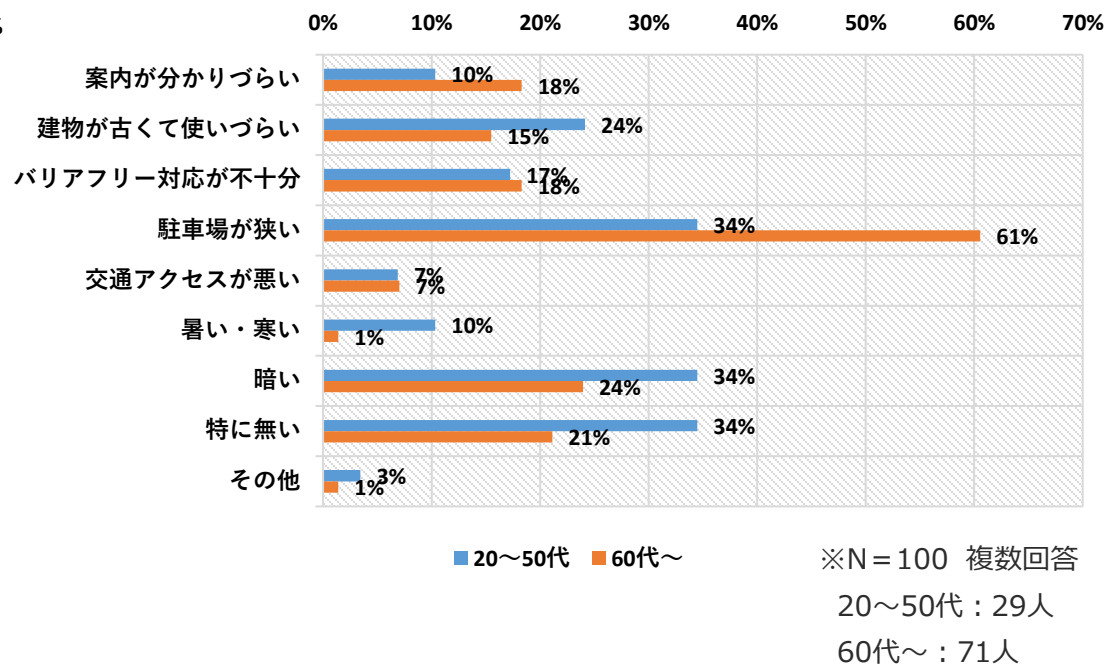
来庁頻度



(4) 現庁舎で不便に感じること

- 60代以上の方は、駐車場の狭さを多くの方が挙げている一方、20～50代の方は、暗さや古さを不便に感じている。

現庁舎で不便に感じたこと



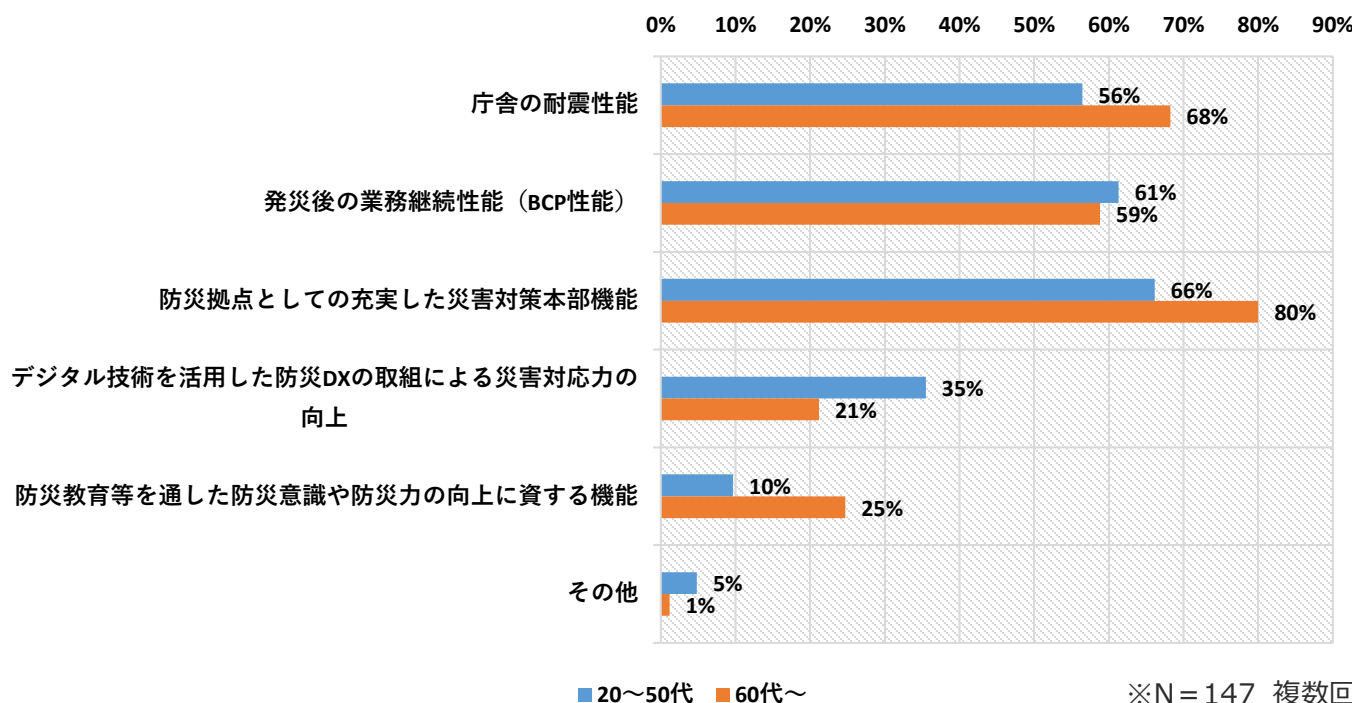
⇒ 県庁舎は県の象徴である一方、県民にとっては遠い存在であることが分かった。その要因として、施設の不便さが一つの要因となっていると思料される。

アンケート結果 2 : 基本理念の実現に向けて期待すること 1/2

(1) 防災

- 防災に係る基本理念においては、耐震性能や災害対策本部としての機能など、**ハード面の性能に期待**しており、**60代以上の方の期待が大きい傾向にある**。
- 防災DXに関しては20代～50代の期待が大きく、防災意識や防災力の向上に関しては60代以上の期待が大きい傾向にある。

防災に係る基本理念の実現に向けて期待するもの



【主なその他意見】

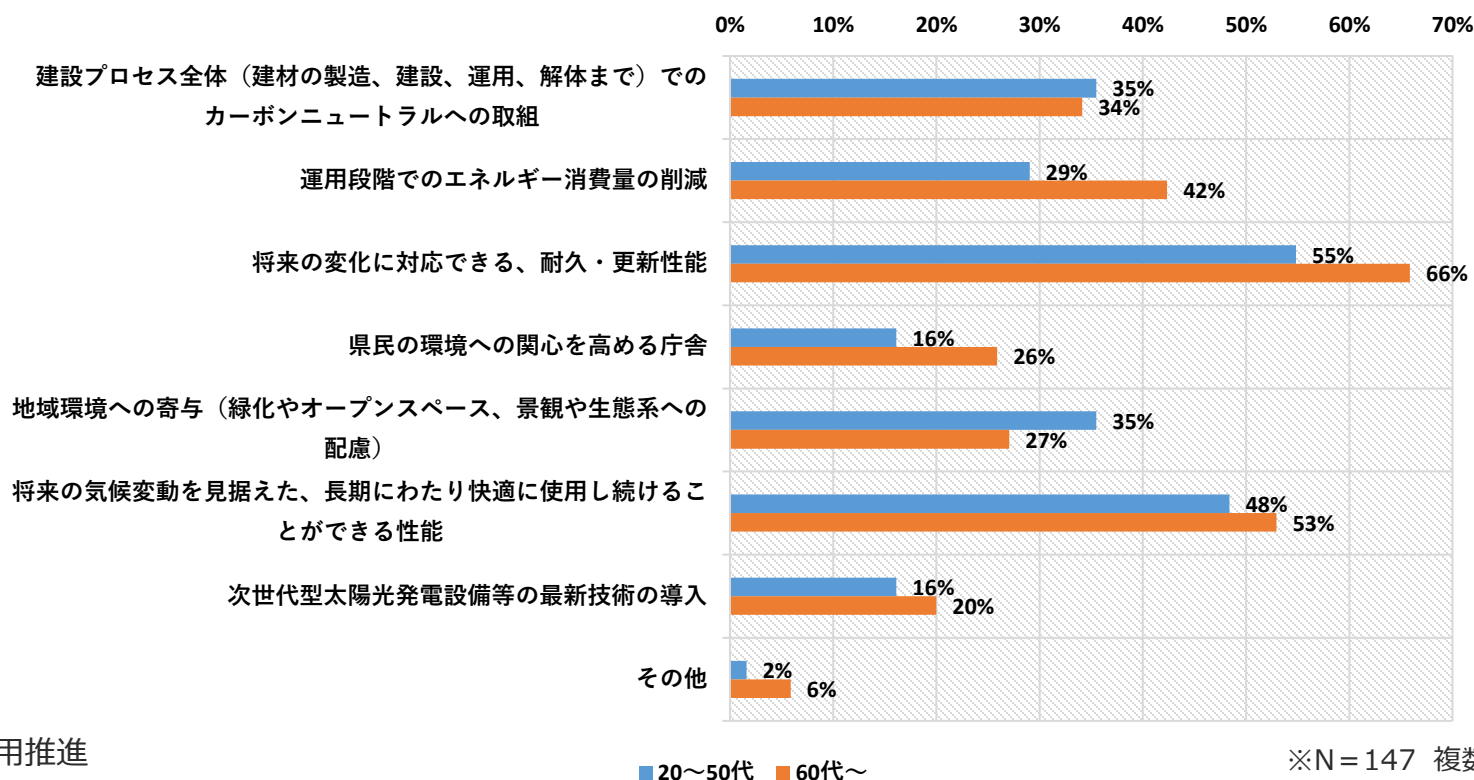
- 発災時は指示処点となるため、交通の便が良いところにすべき

アンケート結果 2 : 基本理念の実現に向けて期待すること 1/2

(2) 環境

- 環境に係る基本理念においては、将来変化や気候変動を見据えた性能への期待が年代問わず多く、最新技術の導入に対する期待は低いことが分かった。
- 世代間で差がある項目として、60代以上の方は、エネルギー消費量の削減、環境意識を高める庁舎に対する期待が多く、20代～50代の方は地域環境への寄与について、期待が大きい傾向にある。

環境に係る基本理念の実現に向けて期待するもの



【主なその他意見】

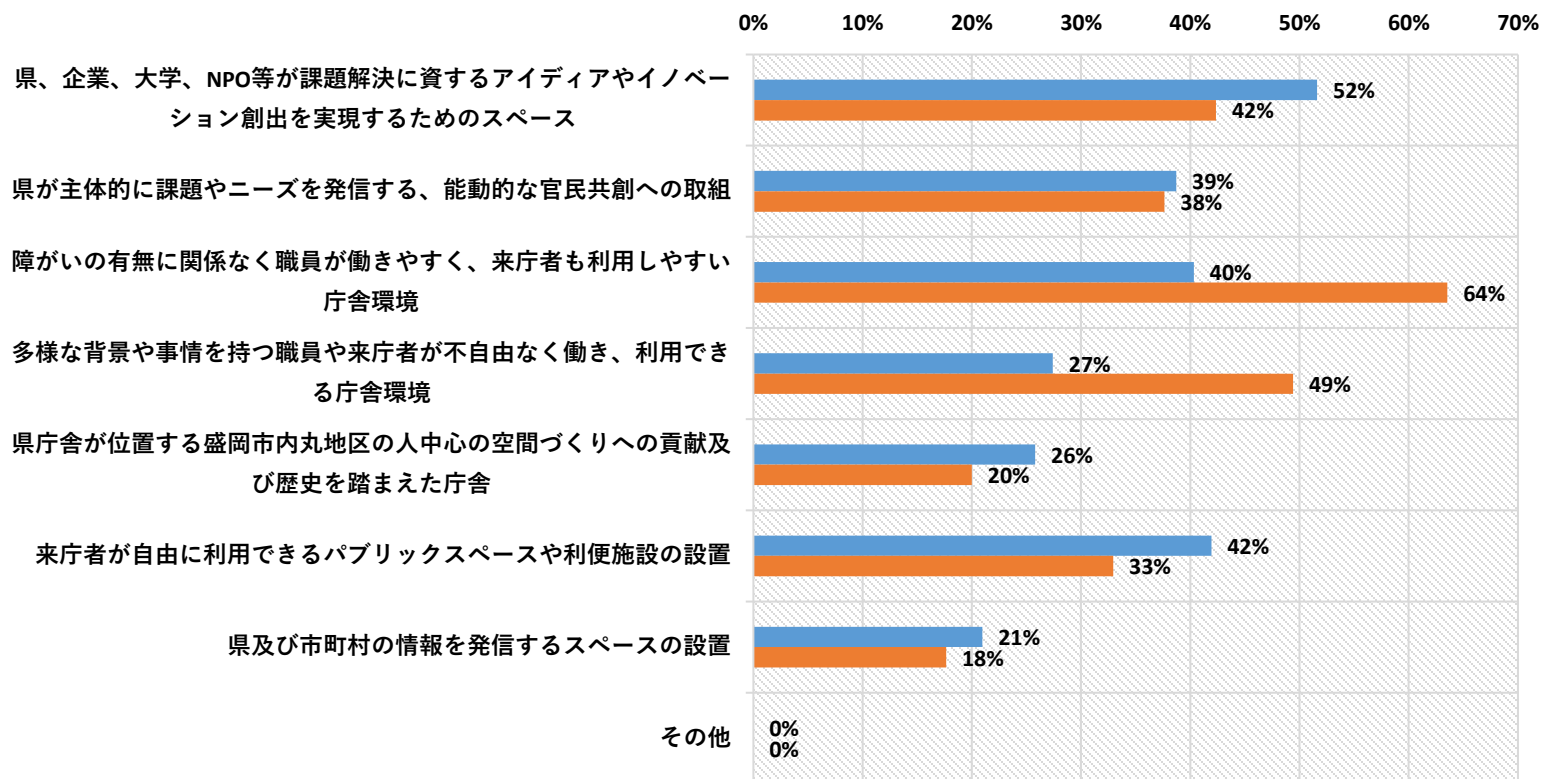
- 水素エネルギーを利用推進
- 宮城県庁の花時計など、シンボリックなものの設置

アンケート結果 2 : 基本理念の実現に向けて期待すること 2/2

(3) 協働

- ・ バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮に関連する期待は、60代以上の方が多く、20～50代と大きく差がある。
- ・ 20代～50代は、60代以上の方に比べて課題解決やイノベーション創出を実現するためのスペースやパブリックスペース等への期待が大きい傾向となった。

協働に係る基本理念の実現に向けて期待するもの



【主なその他意見】

- ・ 県が全面に出るのではなく、市町村が主体となる庁舎

■ 20～50代 ■ 60代～

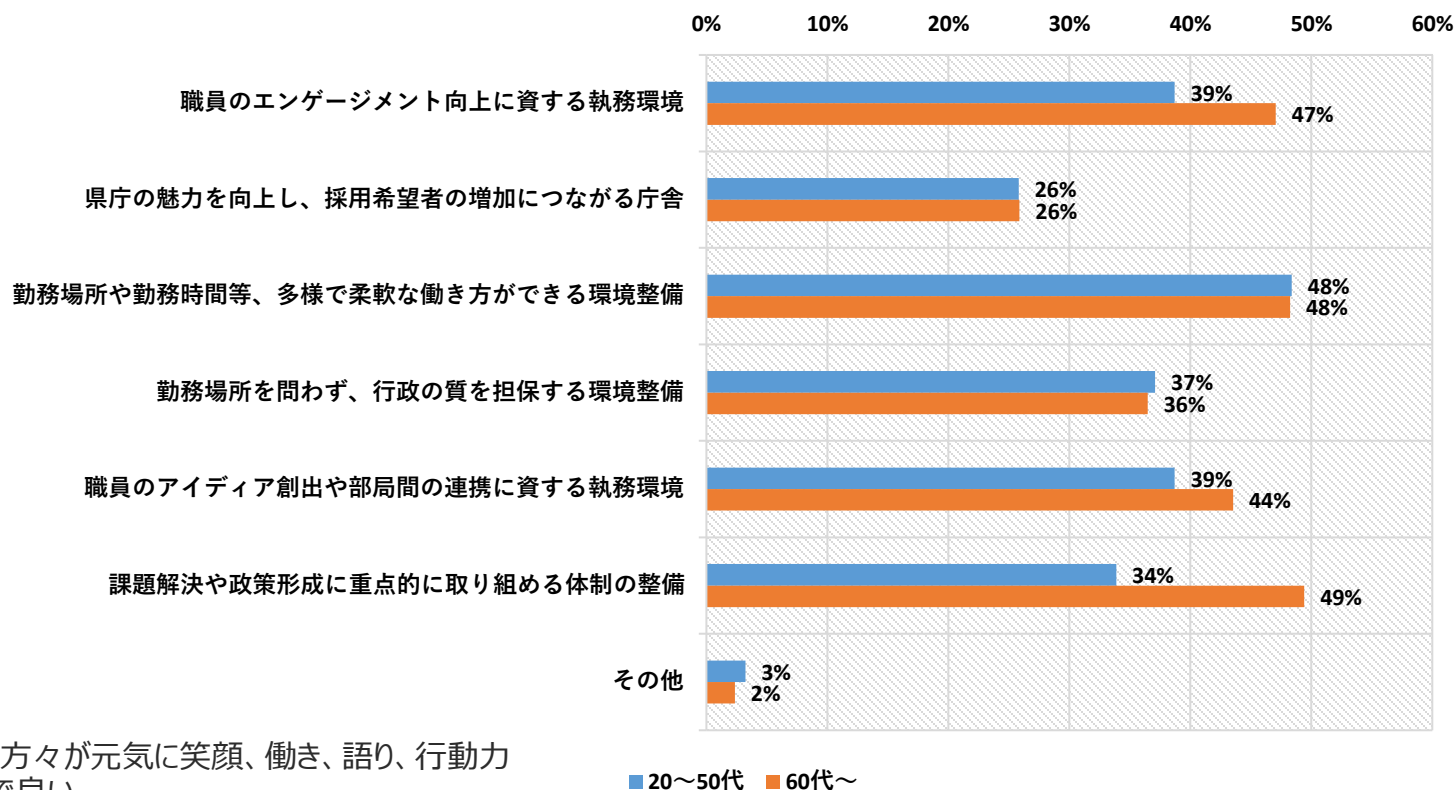
※N = 147 複数回答

アンケート結果 2 : 基本理念の実現に向けて期待すること 2/2

(4) 働き方

- ・ 職員のエンゲージメントの向上や課題解決等に取り組める体制の整備といった点に関して、60代以上の方の期待が20～50代に比して大きい結果となった。
- ・ 採用希望者の増加につながる庁舎という項目のみ共通して期待が少なく、それ以外の項目は大きな差が出なかった。

働き方に係る基本理念の実現に向けて期待するもの



【主なその他意見】

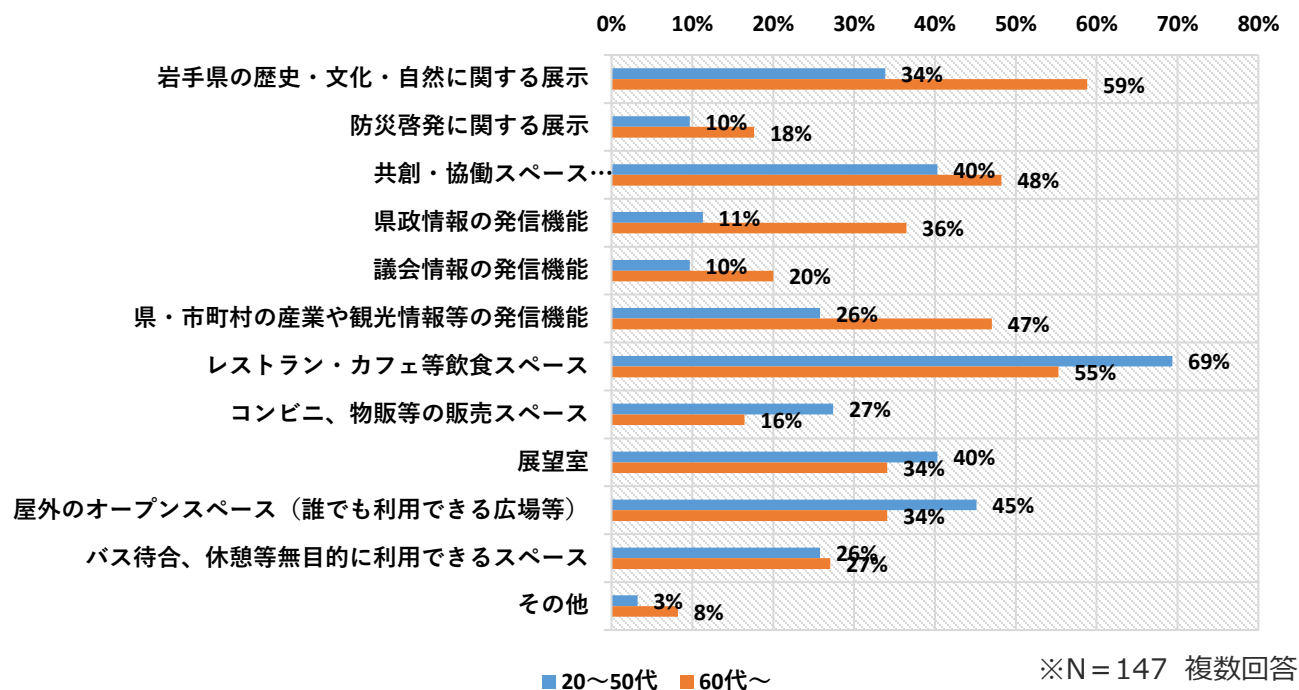
- ・ まずは「人」ありき
- ・ 現場を切り盛りする方々が元気に笑顔、働き、語り、行動力につながれば、それで良い
- ・ 縦割り行政の解消と横の連携

※N = 147 複数回答

アンケート結果 3：どのような機能があれば県庁舎を訪れたいか

- 20～50代は、60代以上の方に比べ、レストランや物販といった利便施設、展望室やオープンスペースといった県民利用機能への期待が大きい。
 - 各種展示や情報発信の機能については、60代以上の期待に比して、20代～50代の期待は少ない。
- ⇒ 60代以上は展示や情報発信といった行政機能の延長上にある機能への期待が大きい傾向にある一方、20代～50代は行政手続きの場にとどまらず、レストランやオープンスペースといった、気軽に立ち寄り、滞在できる開かれた庁舎としての在り方を期待していると思料される。

県庁舎にどのような機能があれば訪れてみたいか



【主なその他意見】

- 行政機能が充分であればそれ以上は必要ない
- 路線バスが1Fの中に入り、雨も関係なく快適で用事を済ませることができるなど。
- 駐車場が有料となると、用事がなければ行かない。
- 親子で来られる場所、県庁舎やお仕事探訪など、子供、学生、お年寄りまでが見学などができる機能
- 駐車場

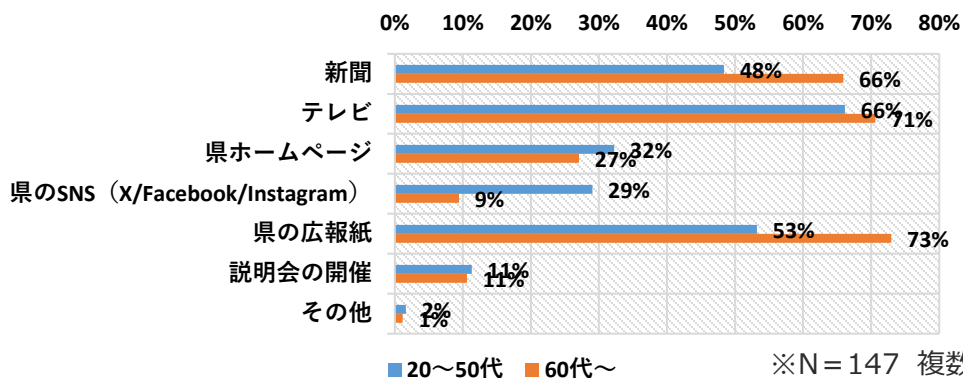
アンケート結果 4：再整備に係る興味や情報発信について

- 情報発信媒体は、**60代以上は新聞・広報誌での発信を希望している方が多く、20～50代は県のSNSでの発信を希望する回答が60代以上に比べて多い傾向**がある。
- 整備プロセスへの参加について、**約6割の方は県庁舎の再整備に一定の関心**があり、**20～50代がやや多い**。
- ワークショップを選択した方も2割**おり、主体性が求められるプロセスへの参加を希望する方もいることが分かった。
- 説明会やシンポジウムへの参加への希望は60代以上の方が多い傾向**にある。

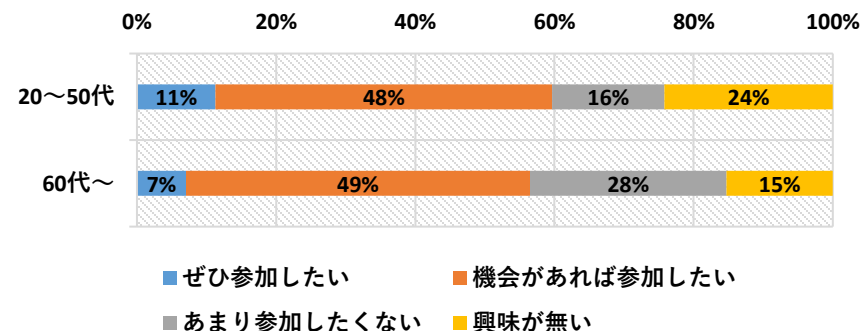
⇒ 県庁舎再整備に関して一定の関心は得られており、多くの方はテレビや新聞等での分かりやすい発信を求めつつ、説明会やワークショップを通じて主体的に関わりたいと考えている方も一定数いると思料される。

県庁舎の再整備の検討状況を

発信して欲しい媒体

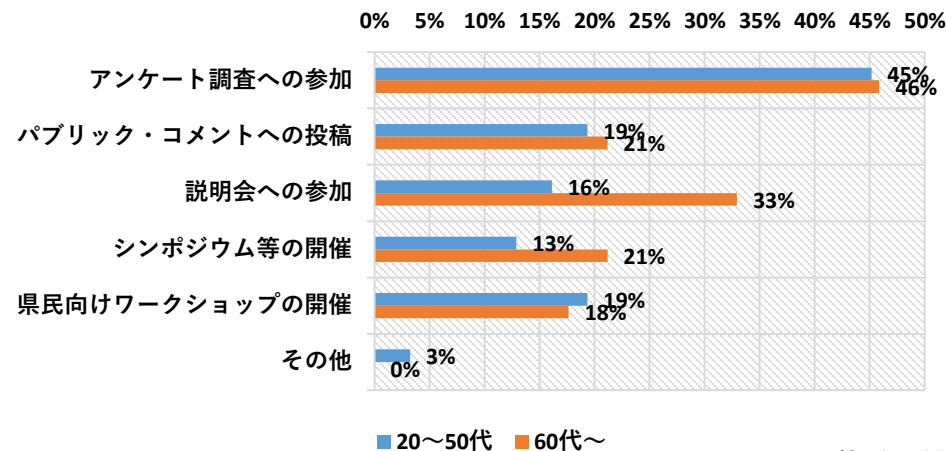


県庁舎の再整備プロセスに参加したいと思うか



※N = 147

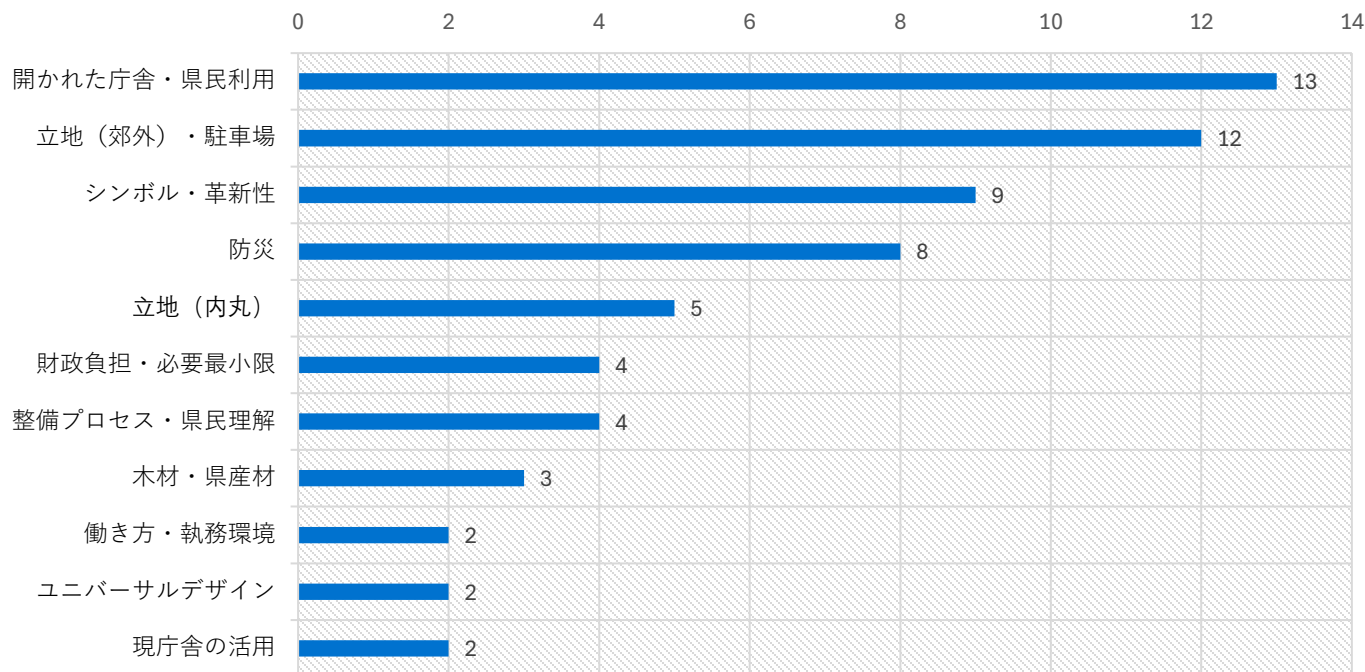
整備プロセスの参加方法



※N = 85 複数回答

- 再整備に関して、自由記載の意見を求めたところ、59人から回答があった。
- 幅広い意見があったが、県民として気軽に利用できる居場所や機能を持つことや、親しみのある県庁舎であって欲しいという意見が最も多かった。
- 次いで、郊外等への立地の検討をすべきとの意見も多くあったが、大部分は駐車場が狭いという理由からであった。
- その他少数ではあるが、県民から理解を得られる整備プロセスや、現庁舎の保存活用、市役所との連携を求める声があった。

問6 再整備に関する自由意見の主な内容



※N=59 自由意見の主な内容を分類し、集計したもの。複数の内容に触れている場合は、それぞれ計上しているもの。